

1 委員会研究テーマ

「一人一人が自ら拓く技術・家庭科の学習」

～幼児とふれあう活動を通して、自分と家族の関係を考える学習のあり方～

2 研究内容

(1) 公開研究授業

① 参観授業 10月17日(水)、18日(木)

- ・ 単元名：「A 家族、家庭と子どもの成長」
- ・ 題材名：『子どもたちと一緒におやきを作ろう』
- ・ 授業者： 墨坂中学校 赤羽美和子 教諭
- ・ 指導者： 塩田西小学校長 宮川まゆみ 先生



② 公開授業の学年学級・交流園児

- ・ 17日(水) 授業学級 3年1組(男子16名、女子17名 計33名)・双葉幼稚園
- ・ 18日(木) 授業学級 3年2組(男子16名、女子17名 計33名)・ゆたか幼稚園

③ 授業研究会 11月7日(水)実施

(2) 研究内容

「A 家族・家庭と子どもの成長」の分野の学習では、生徒たちに、小学校での学習「成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ」「家庭の仕事と分担、生活時間の工夫」「家族との触れ合い、団らん、近隣の人々とのかかわり」との系統性や発展性を生かして、家庭の機能(主として子どもを育てる、安らぎを与える)を体験的な学習を通して意識させていきたい。今の中学生たちにとって、家族の一員として、体験を通し切実感をもって自分のこれからの家族との関係を考える学習の積み重ねがいっそう重要であると考えた。

<子どもたちの視点の転換をねらう>

この分野における学習展開の中で、周囲の人々に支えられて育てられた自分を意識し、その後に幼児との触れ合い体験を行う。そのことで、「支えられてきた自分」から「支える自分」に視点の転換を図りたい。最終的に、「これからの自分と周囲の人々との関係」を家族や地域の一員としての役割の変化から見直し、これからの家族関係を展望していける姿を目指したいと考えた。

(3) 研究方法

① かかわりの中の自分を意識できる学習 (評価・振り返り)

→ 生徒自身が学習している事柄や、その成果が実感できるような自己評価のあり方 《本時》実習・学習カードの工夫

→ 友だち同士で認め合い、励まし合うことができる相互評価

《本時》実習・学習カードの工夫 (ペア・グループでの評価)

→ 教師側の適切な言葉かけやアドバイスの位置づけ

《本時》生徒の発言から生徒の意識をつかむ評価

② 幼児の発達過程と家族の関係を考え、家庭の機能を理解するふれあい体験についてより良い方向を検討する。

③ 小学校や総合的な学習の時間との関連を考え、学習効果を高める展開について考える。 → 授業研究会の中で実践事例の発表を通し情報交換をしていく

④ 生徒たちの発達段階を考慮した3年間を見通した指導計画の作成をする。

4 研究の成果

(1) 「支えられてきた自分」から「支える自分」へ

① 《おやき作りの場面》

- ・園児が手を洗い終わるまで見届ける
- ・おやき作りのときの生徒と園児との会話
- ・口数は少ないが、笑顔で見守ったり、そっと手を出す女の子たちの姿
- ・できたおやきを入れやすいように、鍋を回してやる
- ・蒸し器をのぞき込んでいた園児の体を危なくない方へそっと戻してあげる

② 《紙風船作りの場面》

- ・エプロンの名前を、洋服に張り直すように教えてあげる
- ・園児の前の方に手を伸ばして、折り方を教えてあげる
- ・園児へのやさしい声かけ

③ 《的あてゲーム、おやきを食べる場面》

- ・投げて散らかった紙風船を、必死にかごの中に戻すお兄さん
- ・園児との会話、激励する言葉
- ・園児が食べるまで、生徒たちはずっと食べずに見守っている

④ 《終わりの会から見送りの場面》

- ・歌う姿を笑顔で、ずっと見守っている ・最後までずっと手を振って見送る
- ・手提げ袋を取ってあげたり、水筒を入れてあげたりしている
- ・最後になった二人をずっと見守っている

(2) 友だち同士で認め合い、励まし合うことができる相互評価

①おやき作りでの場面などグループの協力がよくできていた。

②学習カードの記入発表の場面では、生徒同士の何気ない励ましの姿が見られた

(3) 教師側の適切な言葉かけやアドバイスの位置づけ

- ・墨坂中学校の生徒の皆さんではなく、お兄さん、お姉さんという言葉の工夫
- ・11：20のフラッシュカードの提示 ・今日の学習の流れをカードで確認
- ・お友だちと話すときは、目線を下げて(目線をあわせて)話しましょう
- ・園児へのインタビューの視点2つを示した ・注意点を記入したカード
- ・調理実習の片付け、チェックカードをもって机間指導

5 来年度への課題

(1) 追究場面での子どもたちの姿をどのようにとらえていったらいいのか、具体的な方法や評価も含めて研究を深めたい。

- ・生徒の気づきや、活動をどう評価するか。

(かかわりの中の自分の教師の評価)

- ・ふれあい活動のより能率的な計画の仕方。

(2) 学んだことをいかすことが本当に家庭での実践につながりやすくなったのかなど、委員や参加者を通しての事例紹介や情報交換などからつかんでいきたい。

(3) 家庭科、技術・家庭科の教科として安全面への配慮

- ・蒸し器のないところで、紙風船作り
- ・蒸し器、火加減、水の量、蒸す時間
- ・ビールケースの段ボールの固定